

## 水素輸出大国を目指すオーストラリアの取り組み

電力・新エネルギーユニット新エネルギーグループ 松本知子

### 要旨

オーストラリアは、低炭素化社会におけるエネルギー源としてだけでなく、将来の輸出産業として水素に注力している。2018 年 10 月「水素ロードマップ」、2019 年 11 月「国家水素戦略」が発表され、水素分野での研究や実証事業も積極的に行われている。オーストラリアは日本の重要なエネルギー輸入国の一つで、特に、LNG や石炭では安定した貿易関係が築かれている。そして、水素についても将来の貿易を視野に入れて、日豪間で水素に関する実証事業の協力はすでに開始されている。

本稿では、初めに、「水素ロードマップ」および「国家水素戦略」を概観して、オーストラリアが水素産業の展開や水素社会をどのように描いているか把握する。また、連邦政府による水素技術に関する研究開発を支援する政策についても触れる。

次に、州政府（南オーストラリア州、クイーンズランド州、西オーストラリア州、タスマニア州）が独自に公表している水素に関する戦略や行動計画を考察する。そして、各州の水素産業の支援政策や実証事業を整理する。

最後に、オーストラリアの水素政策に影響を及ぼすと考えられる要因として、他のエネルギー輸出国による水素市場進出、国内水素需要の見通し、ブルー水素（CO<sub>2</sub> 排出を抑制して化石燃料（石炭や天然ガス）から生産される水素）の実現可能性、再エネ導入に伴う課題、LNG 輸出との共存、水素生産用の水の確保を取り上げ、水素社会や水素輸出国の可能性について検討する。

なお、オーストラリアが水素の主要な輸出先として挙げている日本も重要な役割を担っている。日本は水素社会へ向けた取り組みを着実に進展させ、オーストラリアに対して信頼できる水素輸入国であることを示していかなければならない。良好な協力関係の下、日豪両国が水素産業での競争力を高めて、アジアの水素市場をリードしていくことが期待される。

お問い合わせ : [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)